

製品名: Pin1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16155**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	PIN1
別名	PIN1; Peptidyl-prolyl cis-trans isomerase NIMA-interacting 1; Peptidyl-prolyl cis-trans isomerase Pin1; PPlase Pin1; Rotamase Pin1
遺伝子 ID	5300.0
SwissProt ID	Q13526
免疫原	抗血清はヒト Pin1 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 1-50

背景

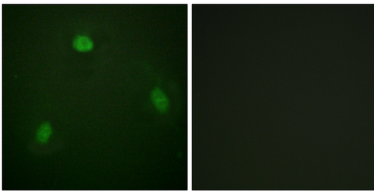
ペプチジルプロリルシス / トランスイソメラーゼ (PPlase) は、ペプチジルプロリルペプチド結合のシス / トランス異性を触媒し

ます。この遺伝子は PPlase の1つをコードしており、リン酸化セリン / スレオニンプロリンモチーフに特異的に結合し、基質のリン酸化後の構造を触媒的に制御します。この PPlase によって触媒される構造制御は、細胞増殖、遺伝毒性およびその他のストレス応答、免疫応答、多能性の誘導と維持、生殖細胞の発生、神経分化、そして生存の制御に関与する主要なタンパク質に大きな影響を与えます。この酵素は、アルツハイマー病や多くの癌の病因においても重要な役割を果たしています。この遺伝子には、複数の選択的スプライシングを受けた転写産物バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2011年6月],触媒活性: ペプチジルプロリン (オメガ=180) =ペプチジルプロリン (オメガ=0) 。,ドメイン: WWドメインは、STIL および MPHOSPH1 との相互作用に必須である。 ,機能: NIMA と相互作用し、その有糸分裂促進活性を減弱させることで有糸分裂を制御する必須 PPlase。異性化したプロリン結合の N 末端側の酸性残基を優先的に選択する。 pSer/Thr-Pro のシス/トランス異性化を触媒する。 ,PTM: DNA 損傷時にリン酸化される (おそらく ATM または ATR による) 。 ,類似性: 1つの PpiC ドメインを含む。 ,類似性: 1つの WW ドメインを含む。 ,サブユニット: STIL と相互作用する (類似性による) 。 MPHOSPH1 と相互作用する。 ,

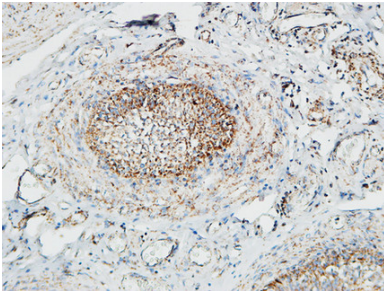
研究分野

RIG-I 様受容体;

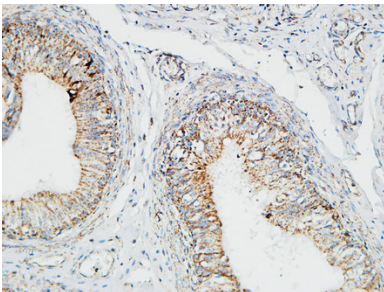
画像データ



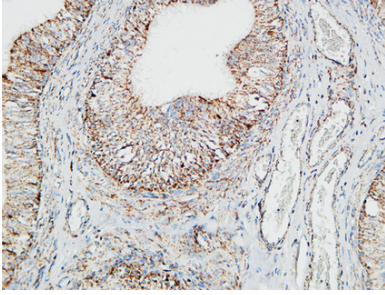
Pin1 抗体を用いた NIH/3T3 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



パラフィン包埋ヒト精巣の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分) 。



パラフィン包埋ヒト精巣の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分) 。



パラフィン包埋ヒト精巣の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。